

塩水川流域総合保全構想の具体内容（案）

*資料 2-2 の記載内容（要素）の各項目についての具体的内容（案）

①これまでの事業の検証結果（案）

対策名	シカ保護管理	植生回復	土壌保全
実施事業	ニホンジカ保護管理事業	自然公園施設整備事業 丹沢大山保全対策事業	(溪流・崩壊地) 治山事業
保全計画 での当初 目標	シカ管理手法の確立、実施 *事業計画では数値目標提示	保護柵設置	(森林の保全再生に係 る「関連事業」)
重点区域 でのねら い	生物多様性の保全・再生 地域個体群の安定的な存続	自然林林床植生の保護育 成	特別保護地区の植生回 復
塩水川流 域の実施 内容	管理捕獲、生息環境管理 実態調査・モニタリング	植生保護柵設置 維持管理、モニタリング	渓間工 土砂流出モニタリング
成果	事業実績 2 年のため評価困難	柵内は植生が回復	取りまとめ中
実施数量	*今回は省略		
判明した課題			
現地手法	生息環境管理のための森林整備手法が未確立 目標達成のためには捕獲手法改良も必要	緩斜面でないと設置困難。 破損が多い。(倒木や雪) 目的(後継樹保護育成、 林床植生保全、生物多様 性・・) に対応する設 置方法が未整理。	取りまとめ中
実行方 法・体制等	生息環境管理(多彩な森林づくり)は本来他事業のため主導権がない。 ハンターの高齢化。 科学的知見に基づいた計画樹立・見直しのため踏むべき段階が多い。(時間・予算がかかる。) 事業間の連携不足。	施設維持管理やモニタリングの人員・予算が不十分	取りまとめ中

参考：第 2 回丹沢大山保全緊急対策事業資料「現行丹沢大山保全計画の方針と重点化の方向性」

丹沢大山自然再生基本構想<骨子(案)>の個々の取組みの現状と評価

②塩水川流域の現状の課題（案）

景観域	土壌／土砂	植生／森林	シカ個体群
ブナ林	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌浸食が激しい（石川委員調査結果） ・一部でガリー浸食が発達し、浸食量も大きい。（堂平報告書） ・高標高域を中心とした崩壊は、現在小康状態。（堂平報告書） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護柵による対策は追いつかず、尾根筋を中心に林床植生の劣化が著しい。（シカ生息環境調査） ・ブナ等上層木の後継樹が十分に生育していない。（植生回復調査） ・リター供給はあっても裸地化しているため留まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丹沢山周辺は、丹沢の中でもシカ密度が高い。（シカ調査）
人工林・二次林	<ul style="list-style-type: none"> ・緩斜面でシルト系土壌が厚いところは、下層植生が乏しいと土壌浸食激しい。 ・急傾斜では表層が礫混じり土となっている。（富村委員調査結果） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中標高域の純粋な人工林は多くはない。 ・主な人工林は手入れされているが、林齢に対しての成立本数はまだ多く（?）、シカ採食圧との相乗作用で下層植生が乏しい。 ・成立本数の少ない明るい人工林では林床がシカ不嗜好植物に覆われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高～中程度の密度。
溪流	<ul style="list-style-type: none"> ・塩水林道終点より下流は砂防指定地でえん堤、上流は治山の谷止が設置されている。 ・豪雨時には濁流が宮ヶ瀬湖に流入。（石川委員写真） ・河床には上流のシルト系土壌に由来する泥質堆積が見られる。（富村委員調査中） 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防えん堤堆砂域や下流部は、植生が無く開けている。（空中写真ほか） ・溪畔林造成の事例あり（県有林） 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺と同じく高～中程度の密度と推定。
流域全体	<p>丹沢における3つの侵食問題（崩壊地、ブナ林土壌浸食、人工林管理不足による土壌浸食）のうちここでは特にブナ林土壌浸食が深刻。</p>	<p>全域で林床植生が劣化。特にブナ林。</p>	<p>全域で高密度、特にブナ林。</p>

③事業実行上の課題（案）

項目	課題	(考えられる解決の方向性) キーワード
手法の確立	<p>保全対策事業ではモニタリングを行うなど科学的に自然環境を管理する手法をとってきたが、いざ検証する段になってみると、シカ保護管理、植生回復などこれまでの取組みは試行的な性格が強かったことがわかった。</p> <p>新たに発生した対策では、技術開発（実態把握—試行—検証）が必要でありそのための時間と手間と経費がかかる。</p>	<p>初期投資 事例の集約</p>
事業間の連携不足	<p>事業間調整が年度別や事業実施箇所ごとの調整となっており目標に対して実行性に欠ける。</p> <p>シカ保護管理と生息環境管理（各種森林整備関連事業）など。</p>	<p>流域全体の総合的グランドデザイン 計画の統合 計画を総括的に検討する段階</p>
人員・予算の不足	<p>主に維持管理やモニタリングについて、人員や予算の不足が指摘されている。</p>	<p>業務の効率化 効率的資源配分 最低限の資源確保</p>

参考：丹沢大山自然再生基本構想＜骨子（案）＞ の個々の取組みの現状と評価

④流域目標設定

	緊急目標	短期目標	中期目標	長期目標
流域全体	3年	5年	15年	30年
	丹沢大山の多様な恵みの再生			
	生物多様性・健全な生態系			
	植生回復			
	土壌保全			
ブナ林	土壌保全	林床植生回復	シカ個体群密度の適正化 天然更新可能な自然林	丹沢大山の多様な恵みの再生
人工林 (中標高域)	土壌保全 シカ越冬地の創出	生態系環境収容力の確保	集中林業地での適性管理 環境保全林の生物多様性確保	
溪流	可能な箇所での希少生物の保護	溪畔林再生 (溪流環境向上)	溪流生態系の再生	

*大まかに緊急—短期—中期—長期目標を設定し、実際にどの場所がどのような状態になるのかさらに具体化する。

*達成目標における時間設定の検討要素は、技術的に可能な時間と達成要求の時間。